

# 四国遍路道研究会報告（第10回）

## 四国遍路みちにおける、「へんろ転がし」の工学的研究

四国遍路みち研究会

### ○第84番屋島寺～安徳天皇社の現地調査報告

（第11回現地調査 2014.1.25）

平成26年1月25日に屋島越えを行った。地元高松であり、久しぶりの会員もたくさん参加した。立春を間近に控え一年で一番寒い時期なのだが、参加者の日頃の行いの良さが身方したのか暖かい日だった。集合は大型スーパーの駐車場、国道11号から屋島総合病院前を、北に向け相引川を渡り橋のたもとの小社に、その昔の屋島大橋の親柱と、84番屋島寺への十八丁目の道標（明治3年）、享保11年の一丁目と二丁目の丁石などが安置されている。



石張階段とその横の土道

琴電志度線を越え、新池から屋島小学校のそばを通る参道は、ほとんど石張りかコンクリートの舗装道となっており快適ではあるが、趣がない。



加持水（かじすい）の水面

また、それから上への木陰道の階段は歩幅が微妙に異なり歩き難い、このためか、階段横の土道が、よく踏み固められている。今回、一丁目から屋島寺への十八丁目までで、五丁目・十四丁目・十六丁目の3丁石が不明だった。

途中十一丁目あたりにお地藏さんと「加持水（かじすい）」案内板等があり、水面は見たが今では飲用には適さないだろう。標高250mの十五丁目あたりに「不喰梨（くわずのなし）」の案内板

がある。そこを上ること約150mには勾  
碑や地蔵などが多い。こちら自然岩の  
「豊石」付近からの高松市街地の景観は  
格別。この参道は享保年間の道標や丁  
石が整備された遍路道で、終点の屋島  
寺の仁王門前には大正時代の旧道路法  
施行令に基づいて設置された「屋島村  
道路元標」の標石がある。ここまでの登  
り道では、「へんろ転がし」区間はなし。

屋島寺の仁王門、四天門をくぐって  
本堂から東門を抜け、屋島台地を東に



高松市街地景観



へんろ転がし（東側遍路道下り）

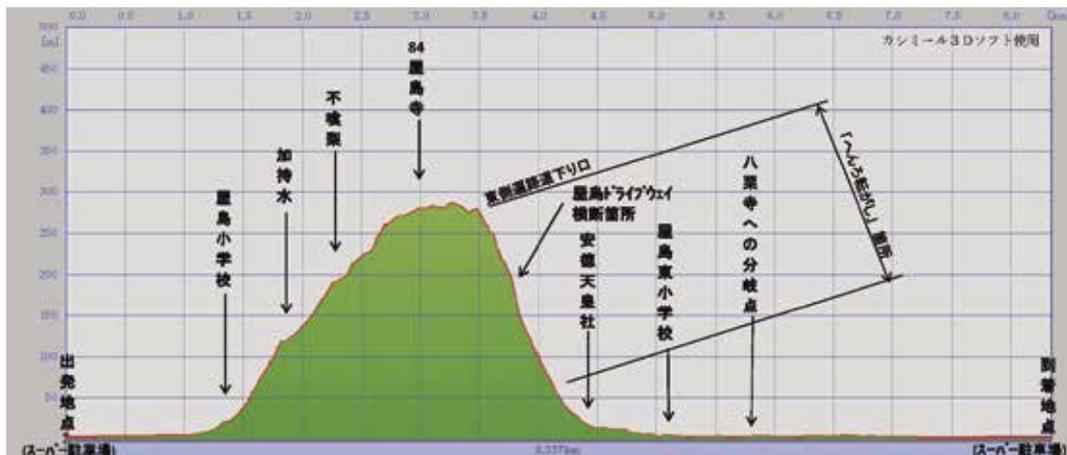
移動し、元「ホテル甚五郎」のすぐ南  
に「八丁目」の丁石があり、首なしの  
地蔵が五体ほどある。そこが今はあま  
り使われなくなった東側遍路道の下り  
口（標高約284m）で、垂直に降りる急  
坂断崖が「へんろ転がし」で、延長的  
に約1.0km位あろうか、勾配も50%強  
のところもある。土道に安全ロープが  
張られ絶壁をどうにか降りていくこ  
とができる。これも、地元屋島東遍路道  
保存会のご尽力のおかげである。途中、



へんろ道調査状況



屋島ドライブウェイを横切り（標高約175m）、安徳天皇社に至る直線の急坂道が遍路道で、集落と山林の境にはイノシシ除けと思しきフェンスと施錠付きのドアがあった。丁石はあるが順番が違っている。物の本によると、「昔ここの若者が力比べをするのに丁石を運ぶ力自慢の道具に使っていた。」との記述を読んだことがある。ここら付近には、遍路墓がたくさん見られた。ここを下って、直に安徳天皇社（標高約30m）に着く。ここで一服し、後は屋島を周回する通称屋島公園線などのなだらかなみちを、ひたすら集合解散場所のスーパーの駐車場を目指



縦断図

した。途中早咲きの梅林横を通る「へんろ転がし」区間を含む都合8kmほどの調査で、歩き遍路久しぶりの方は、お疲れ様でした。



屋島寺山門前の調査団